HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	朝鮮の農村社会集団に就いて
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Citation	調査月報, 14(9), 1-23
Issue Date	1943-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/78353
Type	journal article
File Information	C017_0113_Part1.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

農業の種類より見る農家戸數（內地）

	專業農家	農業を主とする兼業農家	農業を從とする兼業農家
耕種のみを營むもの	四九・四%	五五・三%	八一・七%
耕種を主とし之に養蠶を配するもの	二五・八	一九・二	五・五
耕種を主とし之に養畜を配するもの	一二・〇	一三・〇	五・一
耕種を主とし之に養蠶養畜を配するもの	八・〇	七・四	〇・九
其他	四・八	五・一	八・八
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

調査月報（朝鮮總督府）第四卷第七號 昭和十八年七月

調査・研究

朝鮮の農村社會集團に就いて

鈴木榮太郎

內地農村に於けると同樣に、朝鮮の農村に於いても、家族と村落が最も重要な社會化の單位をなして居る。その意味は、內地や朝鮮の農村に於ける人々の生活活動の中其主要なるものは殆ど悉く家族と云ふ集團組織と村落と云ふ集團組織を通して營まれて居る、と云ふことである。彼等は何れかの家族集團に所屬し、又何れかの村落集團に所屬して居る。そしてその所屬して居る家族集團と村落集團が、個人の生活活動を根本的に制約して居る。何れの家族にも何れの村落にも所屬しない農民は、內地にも朝鮮にも原則的には見る事が出來ない。その事は當然の事の樣に考へられるであらうが、世界各地の農村について見てみると、それは決して然かく簡單に當然の事ではない。家族と村落を社會化の基本的單位として居ると云ふこの最も基本的な生活圖式が內地農民と朝鮮農民との間に全く同樣であると云ふ事は、其社會生活の構造に於ける最も基礎的な部分の一致を物

語るものである。

然し社會生活の框をなして居るところの家族や村落の集團構造や社會機能が兩者の間に於いて幾分異つて居るところがある爲に、此等の集團が個人を制約する其方法や强度にも幾分相異があるし、又家族と村落以外に存する第二位的な社會的框の構造や機能も幾分異つて居るから、そこに見られる農民の生活樣態は幾分異つて居る。

右の如き問題を明らかにする爲には、農村住民の生活現象を人と人との間の結合關係と云ふ一點から眺めて其結合の組織や機能を究明しなければならぬ。朝鮮農村に於ける社會構造と云ふは所詮かくの如き結合の組織が朝鮮農村に如何に構築されて居るか、その構造を意味するのである。社會構造の究明の爲には、生活現象のあらゆる面を觀察しなければならぬ。信仰の生活であらうと、經濟の爲の活動であらうと、私等はそれを只結合關係としてのみ觀察し處理するのである。それが所謂社會分析である。社會分析は客觀的に最も鮮明なる組織的集團即ち團體より始まり、漸次組織化の程度の低きものに及び、終ひには全然組織なき集團に至るのみならず、關心共同の關係にまでも進むのである。故に私等の朝鮮農村社會分析の第一步は、先づ朝鮮農村に比較的一般的に見られる諸種の組織的集團が如何なる構造と機能をもつて居るかを明らかにする事である。然し朝鮮農村に比較的一般的に見られる組織的集團としては、如何なる種類のものがあげられるか、それが第一に問題である。

これまでに私が鮮內の數箇所の地方に於いて試みたモノグラフ的調査の結果に依れば、朝鮮に於ける比較的一般的な農村社會集團はその種類に於いて大體內地農村に於けると同樣であるが、一方にあつて他方にないものもある。私は內地に於ける現時の農村社會集團としては、次の諸種目をあげる事が出來る。行政的地域集團、氏子集團、檀徒集團、講中集團、近隣集團、經濟的集團、官設的集團、血緣的集團、特殊共同利害集團。今これ等の各種目に對應する朝鮮に於けるものについて特に地域性に關聯せしめつゝ、私見を述べる。尙ほこゝでは右の諸種目の外に村落自營集團の一種目を加へ得る。これは一般に集團組織化の程度の低いものであるが、便宜上こゝで矢張り一種目として擧げる事が出來る。以下記するところは右の各種の集團に關する全くの素描に過ぎないが、社會集團の各種を一應並置してみる事は朝鮮農村社會研究の端緒に是非果す可き課題である。

（一）行政的地域集團

內地の農村では、今の行政村の下に主として土地區分として大字小字があり、主として聚落區分として區がある。然し區制はないところもある。大字小字も土地區分の意味よりも聚落區分の意味に用ひられる場合も多い。部落と云ふ語は明確でないが、大體大字を意味すると解されて居る場合が多い。部落と云ふ觀念は土地の區分と云ふよりも聚落の形態的統一が意味されて居るばかりでなく、人々の地域的社會的統一をも豫想して居ると思はれる。村落又は私等の所謂自然村の觀念が部落と云ふ語に含意されて居る樣である。然し嚴密には大字と自然村とは一致しない場合も多い。後に云ふ樣に農村に於ける最も基礎的な地域的社會的統一としての自

然村は維新前の行政村卽ち所謂舊村と其地區を同じうする場合が最も多い。維新前の行政村が今日でも最も基礎的な地域的社會的統一の基礎をなして居るのであるが、それが今日大字となつて居るところもあり然らざるところもある。維新前の行政村が今日大字をなして居る場合、又は區をなして居る場合、それは當然に部落と呼ばれて居るが、部落に於ける社會的統一の根據が大字又は區である事に因るのではなく、維新前の行政村であつた事によると云ふ事を農村の人々も今日では一般に忘れて居る。けれども維新前の行政村もそれが行政上での一單位であつたから强固な生活協同體をなしたのではなく、旣に村落協同體をなして居たものに行政上の性格を添加したに過ぎないのであつた。此村落協同體は、千年も二千年も或ひはもつと前から一つの社會的統一體として存續して來たものであつて、時代によつて行政上の一單位になつたりならなかつたりしても、其社會的統一性は不斷に保持されて來たのである。そこに住む人々が自然的社會的理由に基づいて自から結合して居る村落であるからそれを自然村と云ふのである。

朝鮮に於ける自然村は原則的に所謂舊洞里であると思はれる。舊洞里とは李朝末期に於ける行政上の最下級單位であつたところの洞の事である。然し當時に於いてもそれを洞と云はず里と云つて居たところもあり、その行政上の役員の名稱等も全鮮一樣の形式ではなかつた樣であるが、然し當時の面の下に右の如き最下級單位の行政地區が存して居た事は全鮮的に同樣であつた樣である。而して此最下級單位の行政地區は內地に於ける自然村と同樣に、甚だ長い歷史を持つた村落協同體の基礎の上に出來て居たと云ふ事も亦全鮮に亙つて同樣の事情であつた樣である。此村落協同體を行政上の單位とするかしないかは時代によつて異つても、此協同體自體はそのまゝに存續して來たのであらう。自然的社會的事情は此協同體が容易に解體出來ない樣な樣々の條件をもつて居たからである。

內地に於いては、維新後の新制度によつて自然村は全然行政的意義を除去され、所謂部落根情は自治行政の運營に支障を與へるものとして部落卽ち自然村の社會的統一性は積極的に排斥された。その狀態は數十年經過したのであるが、自然村の社會的統一性は根絕しなかつた。のみならず近時農村の自力更生は此自然村の基礎の上に於いてこそ最も効果的に實現され得る事が認められるに至り、又戰時下國民總力の徹底的發揮の爲に國民組織の下部構造として生れた部落會は自然村の地盤の上に築かれるに至つた。

朝鮮に於ける舊洞里の運命も內地に於ける右の舊村の運命と同じ樣であつた。併合後行政簡素化の必要の爲に、舊洞里の若干が合體して新洞里を形成し、又面も郡も各々若干個つゝ合體して總數に於いて著しく減少した。平均して約二つ半の舊郡が合體して新郡となり、面も約二つが合體し、舊洞里も約二つ半が合體した。新洞里は多くの場合里と呼ばれたが面の下に洞があり洞の下に里がある場合もあり、面の下に里があつて、その下に更に里があるところもある。呼稱は甚だ不統一であるが、組織は皆一樣である。然し面の下に里、里の下に洞がある場合が一番多い樣である。

合體して新洞里の中に收容された舊洞里は、行政上の獨立性を完全に消滅したのではあるが、然し村落協同

體としての其自然的社會的結合は亡び去る事なく存續して來たのである。朝鮮に於いても戰時下の國民總力の徹底的發揮の爲に部落聯盟が組織されたが、部落聯盟の地盤は新洞里に依らず舊洞里に依つて居る場合が多いそれと共に區も改組されて部落聯盟と其地盤を等しうするに至つて居る。部落聯盟の理事長と區長と殖産契の契長とが皆同一人によつて兼務されて居る場合が多いが、その事自體が決戰下の力强い銃後の隣組織を物語つて居る。然し部落聯盟も區も殖産契も共に村落協同體の上に組織されて居ると云ふ事に、此新らしい組織の力强さが存するのである。

朝鮮に於ける行政的社會地區として考慮の中に入る可きものは (一)舊洞里 (二)洞里 (三)舊面 (四)面 (五)舊郡縣 (六)郡 (七)道等がある。此等の行政地區の內、舊洞里及び洞里丈については既に述べたところである。舊面は李朝時代久しく行政單位をなして居たものであるが、然し當時の面は實質上行政的機能も餘り活潑でなく、郡と里又は洞の中間にあつて殆ど傳達的事務をのみ果して居た樣に思はれる。少くとも舊面が一つの社會的統一體として顯著な獨立性を有して居なかつた事は、此地區の上に今日まで殘つて居る組織的集團が何一つ存しない事から考へても推定出來る事である。又此地區內には何等かの非組織的集團が推積して居るとも思へないし、共同關心圈と云ふ可きものが、此地區の上に存するとも考へられない。要するに舊面は單に行政的地區としてのみ存して居たものであり、而かも其行政的意味も强いものではなかつたと思はれる。私等は現在に於ける朝鮮農村住民の地域的社會的統一を考へる場合、此舊面の地區は全然考慮の外に置いてよいものであらうと思ふ。現在の面と郡の地區は併合後に制定されたものであつて、此內の社會的統一は其歷史は決して古くはないけれども、多數の官設的集團が此等の地區の上に年と共に增加されて來たので、故に又農村住民の生活一般の上にも此地區を限界とした社會關係が漸次增加して居ると思はれるので、今日既に此等の地區は單なる行政的地區としてのみ考ふ可きではなく社會生活の一つの統一的地區としても考慮す可きものと思はれる。であるから、假りに此等の地區が現に持つて居る行政的單位地區としての組織を除去したとしても、此等の地區內の人々の社會的統一は尙は幾分殘るであらうと思はれる。國民生活の國家的統制が愈々必要となれば、官設的集團は益々此等の地區の上に增加されるであらうから、此後此等の地區の社會的意義は益々加はつて行くものと思はれる。

舊郡の地區の社會的意義は決して低いものではない。これは郡（又は縣）の舊時に於ける行政的機能が大であつた事にもよるのではあるが、郡を範域とする各種の集團が當時存して居たからである。鄕廳、鄕校、鄕約、三壇一廟等の組織と其等の活動は、當時に於ける郡の强力な社會的統一を充分に證據立てゝ居る。其他郡の社會的封鎖性を豫想せしむる多くの慣行習俗がある。然し舊郡の社會的統一は主として兩班儒林に於ける郡單位の活動組織に歸因して居る樣に思はれる。故に兩班儒林が古く持つて居た社會的意義が漸次變つて來るにつれて其集團活動の形態も性質も異つて來るし、又それにつれて舊郡の社會的統一的意義も漸次變つて來ると思はれる。今日でも舊郡を單位とする文廟の維持と其釋典の祭祀組織は大體昔のまゝに殘つて居るが、これは最も

はつきり殘つて居る舊郡の社會的統一の名殘である。文廟と其釋典が新郡單位に編成換へされて、新郡内に一文廟のみとなり其祭祀組織も新郡單位となるならば、舊郡の社會的意義は俄かに著しく無くなるであらう。

道は其規模に於いて内地に於ける舊藩領に比す可きものであるが、其行政的意義は現在の縣に比す可きもので、社會的統一性は單に行政的にのみ存して居ると考へられる。又人々の結合に何等かの制約を與ふ可く道は餘りに廣大な地域である。舊八道に文化圈の漠然たる存在が考へられるが、其實證的研究は尚ほ將來に殘されて居る。

（二）氏子集團と洞神共同集團

内地の氏子集團に類比す可きものは、朝鮮では洞神共同集團である。洞神と氏神とは其信仰の内容に於いて祭祀集團の組織及び活動に於いて甚だ相類似して居るが、只其國家神的性格に於いて著しい相異がある。

内地に於ける氏神は今日では皆産土神である。内地の全土は餘すところなく氏子場に區分され、國民は悉く其居住地の産土神の氏子である。然し所謂崇敬者として尊崇する神社が氏神の外にもあるが、其歸屬の關係は一般には矢張り氏子と云つて居る。農村に於いては小字位で維持する神社があり、大字位で維持する神社があり更らに又數箇村で維持する神社があるところもある。その場合には住民は三重の氏子關係に立つて居るのである。嚴格な意味での氏神は大字或ひは部落維持の神社であるのが原則の樣である。明治以後神社制度は隨分整備されて來たが、肝心な氏子組織については尚ほ不備な點が多い。

朝鮮の洞神とこゝに云つて居るのは、舊洞里の人々が自分達の洞即ち部落の守護神として共同で祀つて居る神仰對象である。洞神と云つて居るところもあるが、山神とか城隍神とか山川神とか堂山神とか地方により部落により其名稱は樣々である。此洞神の祭も洞祭と云ふところもあり、山神祭、城隍祭、堂山祭などと云ふところもある。祭りの仕方も地方により相當異つても居るが、然し又相通ずる點も多い。

洞神は部落の守護神として部落民が共同で祀ると云ふその事は何れのところでも皆同じである。その點は今日産土神の性格を具へて居る内地の氏神と全く同樣である。祭神の最も著顯な性格として嚴しく清淨を愛し穢汚を惡むと云ふ傾向の存する點も兩者甚だ相似て居る。内地の氏神の内には、他地にある大きな神社の分靈を勸請して祀つてある場合もあるが、本末の支配關係があるのではなく、村々の氏神と云ふものは全く獨立したものであると云ふ事が出來る。この點に於いても朝鮮の洞神は全く同樣である。

然し洞神は洞民等の守護神であると云ふ事は一樣に云へるが、人々の體驗に於ける人と神との交はりの親疎關係には著しく相異がある樣である。洞祭に直接參加するのは大抵甚だ少數の祭官丈である。洞民が總出で參加するところもあるが、それは甚だ稀である。祭りのあとで飲福をするのは祭官丈の場合が多い。會食を洞民全部集つて行ふところもあるが、祭の際に祭官以外は常日と變りないところも甚だ多い。祭の時の行事として巫女や廣大や農樂によつて賑やかな餘興を演ずるところもあるが、それ等の催しのないところが多い。祭の日又は翌日洞民一齊に休業するところも多いが常日と變りないところもある。

祭りの場合の部落民の昂奮の程度には確かに著しい相異があるが、然し祭官は洞民の内から嚴選されたものであり、祭の費用は洞會の決議にもとづいて洞の財産又は全洞民の出資によつて營まれるのである。祭官は燒紙して部落全民の平安發展を祈るが、各戸について一枚つゝ燒紙するところもあり、一纏めに一枚で祈る場合もある。兎に角部落全民の幸福が祈願される。少くとも形式的には何れのところでも洞神は洞民全部で維持崇敬され洞祭は洞全民によつて營まれるのではあるが、具體的な祀祭の方法の相異にもとづいて祭に對する洞民の昂奮は甚だしく異つて居る。全然洞神を有しない部落もある。

以上の事を細部に亙つて吟味して見ても、內地の氏神と色々異同を指摘する事が出來るが、然し根本的な相異は國家神的性格が氏神には存し洞神には存しないと云ふ事である。

氏神も地方によつて神事の取り行ひ方は色々異つて居るが、國家神たる性格に於いては皆一樣である。どんな僻遠の地の氏神の例祭にも國家を代表する意味で社格に應じて地方長官や町村長が神饌帛幣料供進使として參向する。その他の大祭は全國同日に行はれ又祭典には常に同一の祝詞が奏上される。其他神社祭式は神社である限り皆一樣に適用される。氏神の國家神的性格が今日の樣に整備されたのは明治以後ではあるが、それは氏神の當然にある可き形である。

內地に於ける氏神は、自然村の內部を强く結束し住民の我等意識を强く鼓舞し、時に敵對的ならしむるものである。氏子集團も所詮は自然村の上に累積して居る集團の一つに過ぎないのではあるが、氏子集團は殆ど自

然村自體の樣に自然村と相卽して居る。氏神は實に內地の自然村の象徵であると云ふ事が出來る。內地で單に祭と云へば氏神の祭を意味し朝鮮で單に祭と云へば先祖祭を意味する。重點が異つて居る。

(三) 檀徒集團

朝鮮の農村と內地の農村を性格的に著しく異ならしめて居るもの、一つとして、內地の農民は殆ど全部佛教信者であり、朝鮮の農民は殆ど大部分佛教信者でない點を擧げ得るであらう。然し人々の社會關係を直接に問題として居る私等には佛教であらうと基督教であらうと、その信仰の內容は問題ではない。信仰に基づく人々の結合の關係が問題である。內地の農村には寺院を中心とした教團の組織が存して居る。佛教に限らずとも、かくの如き教團が何か朝鮮の農村にあるか。大局について云ふならば殆ど無いと答へ得るであらう。朝鮮の農村に宗教が殆どないと云ふ事は朝鮮の農村のさびしさの一つである。既に教團が無いのであるから檀徒集團に對應するものはない。

然し朝鮮の農民にも、內地の農民に於けると同樣に、原始的な俗信がある。然し迷信は今急激に消滅しつゝある。檀徒集團に對應するものを强ひて求むれば巫覡を中心とした其信者の集團であるが、然しそこには檀徒集團に於ける樣な統一的な組織も活動もない。朝鮮農村には內地の農村に見られる各種の集團の中此檀徒集團のみは缺如して居ると云ふのが正當であらう。朝鮮農民の宗教としては、佛教よりも寧ろ基督教が數に於いて著しく多い。然し基督教とても其集團構成が農村の基礎的社會構造の中に占むる地位は無視し得るものと思はれ

る。

（四）講中集團と契集團

內地に於ける講と朝鮮に於ける契は、甚だ類似した組織と機能をもつものであるが、然し又幾分異つて居る點もある樣である。

私は曾て內地に於ける講を色々の見地から分類した事がある。それは講がその種類に於いて多種多樣であるから、色々の見地から分類する事により講の全貌を見易からしむる爲であつたが、朝鮮の契は內地の講より其種類や名稱に於いて更らに多種多樣の樣である。

集團の組織化の程度より見ても契には樣々の種類がある。田畑等一定の財產を持ち數百年存續して來て、尙ほ子々孫々に傳へんとして居る樣な契もある。宗契門契の內にかくの如きものがある。公共事業の爲の洞契の如き扶助を目的とする誼契の如き何れも永久存續の契である。冠婚喪祭の爲の契や產業の爲の契の中には永久存續のものと一定期間存續のものがある。貯蓄や金融に關する契は存續期間が殆ど皆限定されて居る。契は內地の講に比し幾分組織はよく整つて居る樣である。座首などと呼ばれる一人の役員が萬事ことを處理する樣な契もあるが、あまり大きくもない契にも仰々しく役員が互選されて居るものが多い。然し契には一般に形式的な規約はなく、一定の不文律を認め合つて居る。今日契は其名稱丈でも數百に及ぶと云はれて居るが、何れの契にも契としての不文律がある。その事は內地の講に於いても同樣である。

內地の講は講員の性質によつて、性別、年齡階級別、職業別、社會階級別に分類する事が出來るが、契も矢張りかくの如き種別に分類する事が出來る。朝鮮では婦人が家庭外で社會的關係を結ぶ場合が甚だ少いので、婦人丈の契は極めて少いが、然し娘の婚姻の費用積立の意味の婚姻契は存して居る。然し契は皆一般に男子の契である。同甲契や老人契の如きは其名によつても示されて居る樣に年齡階級による契である。農民が組織して居る農業上の契は多數にあるが、漁業契や鐵店契は同業者の契であらう。褓負商の契は歷史的に有名である詩契射亭契鄕約契等は何れも兩班儒林の契である。小作契と云ふもある。

次に內地於ける講は其機能より見て宗教的、娛樂的、經濟的の三類に分ける事が出來るが、朝鮮に於ける契を其機能によつて分けると此三分類法は適切でない樣に思はれる。それは契が今日の樣に發展して來た歷史的過程が內地に於ける講のそれと少しく異つて居るからである。

內地に於ける講は、講と無盡と賴母子の三つの事項の歷史的發展の中に出來上つたものであり、講は經文の講說の講に、無盡は無盡錢土倉に、賴母子は憑の節句の習俗に歷史的つながりが迹ねられ、講は宗教に、無盡は利殖に、賴母子は扶助にそれぞれ連繫をもつて居る。講が持つて居る三類の機能、卽ち宗教的、娛樂的、經濟的の機能は、右の如き歷史的由來にも其根據が覓められるが、然し兎に角現に內地に存する多種多樣の講は、主として宗教的であるか、主として娛樂的であるか、主として經濟的であるか、此等三類の內の何れかであると云ふ事が出來る。

朝鮮の契の歴史的沿革については、私は未だ立ち入つて調べては居ないが、記錄に殘つて居る最も古い時代の契は、主として娯樂に關するものであつた樣である。それは新羅高麗時代にも及ぶと云はれて居る。次に古いのは宗契門契の類で、同族が祖先祭祀の爲に組織する契である。然し朝鮮の民衆に契の知識や活動に習熟する機會を最も多く與へ、契の制度を生活の各方面にまで活用し普及せしむるに至つたのは、高麗朝末期から起つた貢稅組合としての契の發達であつた樣である。軍布契がそれである。この種の貢物契は李朝末期まで續き官民合力でそれを育成して來た事は契の歴史の上に最も注意す可き點である。內地の講には其例を餘り見ない公共事業や社會事業を目的とする契の著しく多い事や、契が主として舊洞里內の住民によつて組織されて居る事や、講と同じく相互扶助的性質をもつものが多い事や、同業組合的乃至相互金融組織的のもの、多い事など貢物契の長い經驗の中から當然に成長して來たものと思はれる。今日或ひは近い過去の時代までに最も一般に多く存して居た契は洞契と婚喪契と取利契と宗契であつたのでないかと思ふ。それに娯樂教養に關する契が附加的に存して居たであらう。洞契は舊洞里住民が其財政的自治的目的の爲に造る契であり、これは內地の講にはその類例を餘り見ないところである。內地の講の中には、それが發展して農家小組合の形態をとるに至つたものもあるが、かくの如き講は寧ろ同業組合的のものであつて公共事業的乃至社會事業的性質はもつて居なかつた。洞契は公共事業的乃至社會事業的と云ふ點に其最も基本的な特性を示すものである。書堂維持の爲の學契も亦同樣の性質のものである。婚葬契、特に喪祭に關する爲親契とか喪具契の如きは宗教的と云ふ範疇の中

に入れてよさそうに思はれるけれども、實質上はさうでない樣である。宗教的經驗を共同する爲の契ではなく單に喪祭の費用を相互に扶助し合ふ爲の契に外ならぬ。それは產業上の相互扶助の爲の牛契や金融契などとその性格に於いて同一のものである。內地の講の中に宗教的機能を營む講が存すると云ふのは、大師講や念佛講の如く宗教的經驗を共同する爲の講であつて、出資の負擔はあつても財力の扶助と云ふ事は中心的な問題でない。然らば爲親契喪具契の如きは宗教的な契と云ひ得ない。同族團體によつて組織される宗契又は門契は主として祖先の祭祀共同の爲の契であるから、寧ろこれこそ宗教的であると云ふ事が出來るであらう。契として宗教的なものは此外には稀に洞祭契がある。然し宗契或ひは門契も祖先享祀と云ふことが第一義的に考へられては居るが、同族の親睦と云ふ事が常に隨伴し寧ろその事が、此種の契集團を最も強く性格づけて居る。卽ち宗契は祭祀集團と云ふ事よりも同族集團と云ふ事に最も素直に自己を示して居る。その意味からすれば宗契も亦全面的に宗教的契であるとは云ひ難い。

取利契は親無し無盡よりももつと徹底した打算的利殖的なものである。取利契は何人かの人が共同出資して高利貸しの業を經營する組織であつて、契の性格の一面を徹底して居るもの、樣である。この場合の貸借關係には相互扶助的な性格は殆ど含まれて居ない。私等は內地に於ける營業無盡は講の範疇の中には入れて居ないが、その營業無盡と雖も尙ほ幾分相互扶助的な性格が存して居る。但し採利契と雖も契員相互間に於いては協力の關係にある。

娯樂敎養に關する契は今日では殆ど存しない樣である。儒林の生活內容が近時著しく變つて來た事や學敎校育機關の進步等に基づくものと思はれる。

然らば今日存する契を其機能より分類すれば、洞契の如きは自然村自治的と云ふ事が出來るし、婚喪契や牛契の如きは相互扶助的と云ふ可く、宗契は同族親和的、採利契は營利打算的と云ふ事が出來るであらう。

要するに機能の點より見て契と講を比較して見ると、契には公共的社會事業的のものが多いがそれは講には餘り見ないところである。又講に比して契には宗敎的娯樂的なものが少ない。相互扶助的金融的貯蓄的と云ふ事は講にも契にも共通に存するところである。

內地に於ける講の一般的性格として私は、嘗て次の五つの性質を指摘した事がある。これ等の點は朝鮮の契についても大體に云ひ得る樣である。

一、地域的制限を受けて居る事
二、共同社會的性質を有す事
三、冷徹なる合理性の存する事
四、各自出資の負擔を伴ふ事
五、成員が皆對等の權利を有する事

契も講も共に自然村の範域內に結成されて居るものが最も多いと云ふ事は、農村の社會構成に關聯して重要な事である。契にも鄉約契の如きは舊郡を一圓としたものであり、洑契や門契の中には自然村の地域外に及んで結成されて居るものがある。然しその他の契は殆ど皆自然村內部に於いて結ばれて居る。講も規模の大なる無盡講の中には數部落に亙るものもあるが、信仰や娯樂や扶助救濟に關するものはもとより、金融貯蓄を主とするものも大部分は自然村內に於いて結成されて居る。洞契や松契や學契が洞內の全戶を契員として居る樣に、お伊勢講の如きも舊村の全戶を講員として居るものが多い。洞契は洞卽ち自然村の財政的機關とも云ふ可き機能を持つものであるが、それに對應す可きものは講にはない。かくの如く契には公的なものがあるが、講は皆私的のものである。契に公的なものがある事は、嘗て納稅組合として發達した歷史的理由から當然に考へられる。そこに契と講が自然村に結びつく關係に於いて自から幾分異るものがある。

既に述べたるが如く講はその種類甚だ多種であるから、講は舊時に於いて凡そ一般に結社又は團體の意味に用ひられたのでないかと思はれる位である。事實明治以後になつて昔の講を組合又は會と云ふ名に改めて居るものが甚だ多い。これと全く同じ樣な事は契についても云ひる樣である。然らば契と講とを仔細に吟味し比較する事によつて、私等は朝鮮農村と內地農村の古くからの社會的性格の異同を比較的容易に明らかにする事が出來る樣に思はれる。

私は嘗て內地の村を都市化の程度によつて分類して、講中村と產業組合村と農場村の三種に分類した事がある。道義的から契約的に、傳統的から合理的に、集團的から個人的に、感情的から打算的に移行して行く村落

社會の發展過程を、右の三つの文字で象徴したのである。私が講から受けて居る一般的印象もそこに自から現はれて居る。朝鮮の契から受ける一般的印象も果してこれと同樣のものであらうか。朝鮮の契は儒教倫理を實踐し儀禮と契約を主んずる朝鮮農村に自から發達したものであると云ふ意見は、契の一般的印象をそこに物語つて居るものとして味はう可き言葉である。

(五) 近隣集團

凡そ近隣とは、隣接して居住する人々の間に於ける特種の社會的關係であつて、生活のあらゆる方面に亙つて相互に援助し合ふ事を期待し合つて居る關係である。然しそこで相互に期待し合つて居る援助には自から種類があり限度がある。近接して居住する爲にこそ容易に果し得る樣な種類の援助がある。それは近親の者でも遠く距つて居住すれば果し得ない樣な種類の援助である。急を要する樣な援助、長期に亙らない樣な、又復雜な事務や面倒な計畫を必要としない樣な、其場限りの誰れにでも出來る樣な援助が、近隣の間に期待される援助である。かくて近隣に於ける援助は、比較的單純なその場限りの間にあはせ的な急場的な援助である。長期に亙る面倒なそして重要な援助は、血族の人々やそれ〴〵の社會的機關に於いて營まれるものであつて、近隣の援助は輕いその場限りの援助である。好意の表示でも近隣間に於けるものには自から種類があり限度がある。贈物にも親切の仕方にも自から限度がある。總て相互に家庭生活の内部に深く立ち入る事は遠慮し、相互に家庭の獨立と尊嚴を尊重し合ふ事を忘れない。近接して居住して居る爲にやゝともすれば陷りがちな無遠慮を互

に誡しめ、お互の生活に深く立ち入り過ぎる事を避け合つて居る。深く立ち入り過ぎてもならず、さればとて無關心でありすぎてもならず、そこに特有の近隣の道德がある。

近代的大都市特に其郊外住宅地に於いては、住民は絶えず移動し、又住民は職業や生活内容や身分等の著しく異る者多く、爲にそこに見られる近隣關係は頗る稀薄である。右の如き條件が社會的距離を著しく遠からしめて居るからである。これに反して農村に於いては、住民は定着的であり、職業、生活内容、身分等皆相等しいものが近接して居住するのであるから、相互の社會的距離は甚だ近く、近隣の關係は充分に成熟する事が出來る。農村に於ける近隣關係は、個々の家を中心とした漠然とした單なる關係ではなく、統一ある組織ある團體をなす場合が多い。近隣集團と云ふはかくの如き團體を意味するのである。既に近隣團體が存し、その團體の活動に關する慣行が出來上つて居るので、人々はそれに從つて行動する事により、互ひに深く立ち入り過ぎる事もなく、餘まりに無關心でもあり得ない樣に行動する事が出來る。農村生活の長い歷史的經驗がかくの如き制度慣行の必要を認め成熟せしめたものと思はれる。

近隣間に於いて援助をなす可き事柄は、凡そ如何なる種類のものであるか、又その援助は如何になす可きであるか、好意を示し贈答を行ふ可き場合は如何なる機會であるか、それ等の事に關し個々の農村地方には一定の慣行が定まつて居る。吉凶禍福の際の援助の仕方、家屋の建築修造の場合の援助の仕方、贈物の仕方、客として饗宴に招く場合の仕方等皆一定の慣行が其方法的基準を示して居る。

內地の農村では、近隣集團は一般に小字又は組と呼ばれるものが、そのまゝ其範圍となつて居る。この地區內には神佛に關する何かの信仰對象があつて、それを講の組織で維持して居る場合がある。故に此近隣集團を講組講中などと呼ぶ地方もある。何か家の內に慶事があつて贈物を配ばるのも此範圍內であり、不幸があつた時直ちに駈けつけて來て援助してくれるのも此範圍內の人々である。屋根の葺き換へに手辨當を持つて來て、材料や道具も持參して援助してくれるのも此範圍內の人々である。

江戶時代の五人組の制度は、民庶の生活の內に自から發生發達したものではなく、官より與へられた制度ではあつたが、近隣集團の最も一般的なものであつた、五人組制度には近隣集團としての機能以外に、幕府又は藩よりの云はば依託事務も存して居た。五人組制度の施行されたのは全國一般ではなかつたが、其地域は相當に廣かつた樣である。幕末頃には相當弛緩して居た樣であるが、兎に角維新になるまで存して居た。明治になつて法制的には一應解體したのであるが、今日でも五人組又は十人組の制度の殘つて居るところもある。今日では一般に小字又は組と呼ばれる地區が近隣集團の地區をなして居るが、近隣集團の組織や機能に關しては五人組制度の經驗から學んだところが多いと思はれる。今日の愛國班隣り組の制度の確立に江戶時代の五人組制度が大いに參考されたのは當然である。

朝鮮に於ける五家統の制度は、今日では跡型もなく消滅した樣に考へられて居るが、避隊の地方には尙ほその痕跡が存して居る樣である。江原道の或る山村で五家作統の語が尙ほ殘つて居ると聞いた事がある。五家統

の制度は內地の五人組制度と同樣に、支那の古法に準據して立案されたものである事は明らかで、肅宗の時代に出來た「五家統節目」の發布によつて完備したと云はれて居る。今より約二百七十年前である。「五家統節目」は最も詳細な五人組帳前書に比すれば、餘程簡單ではあるが、隣保集團としての規定としては殆ど完備して居る。然し五人組制度が大いにさうであつた樣に、五家統の制度も國家行政の補助機關としての機能も持つて居た。然し五家統の制度がどの程度まで實施され繼續されたかについては明瞭でない。五家統の制度は實施後恐らく何もなくして廢滅したであらうが、此制度の趣旨や機能の一部は五家を一單位とせず一部落を一單位として其後も活用されたであらうと云ふ推定には理由があると思はれる。

朝鮮の部落內にも內地の部落に於けると同樣に、小字又は組に類する地域的區分があつて、此小地域毎に僅少ながら社會關係の累積的統一が矢張り見られる樣である。內地の部落では此小地域毎に何か信仰對策があつて、それが此小地域の社會的統一の象徵となり、其信仰對策に伴つて居る祭祀の爲の集團活動が、此地區內の社會的統一の基礎となつて居る場合が多い。近隣集團も此社會的統一の上に重積して居る集團の一つであると見る事が出來る。一種の農家小組合が此社會的統一の上に構成されて居る場合もある。けれども此小地域の社會的統一の基礎をなして居るものは、信仰對象であり、その祭祀活動であると云ふ事が出來る。但しそれ等の信仰對象は明治以後神社の合祀の奬勵方針に從つて部落の氏神の社地內に寄せ集められ其境內社の形になつて居るところが多い。

朝鮮の部落にもそんな小地域の區分はあつても、又社會關係の累積的統一は幾分存して居ても、右の如き信仰對象は全然ない樣である。又單に社會關係の累積的統一の存する以外には、何等組織的な統一は存しない樣である。

江原道原州郡地正面艮峴洞は、古くからの居住者は六十戸ばかりであるが、次の八つの小地域に分れて居る古垈洞、內谷、陵谷、門前谷、遊谷、內村、上村、下村がそれである。これは大體に住居の聚落形態からの區分と一致して居る。これは單なる地名丈ではなく、農事の時には此八つの組が各々組を作ると云ふ事であつた。此洞內の有識者と云はれて居る李某氏によれば、これは五家作統の名殘りで五家作統と云ふ語も用ひて居ると云ふ事であつた。節句の時などの贈答は、一般に此等の組內の家及び親族の間に行はれるが婚喪等の時の贈答には此等の組は關係ないと云ふ事であつた。喪の時の扶助は洞內各戸から一人つゝ行くが例であるし、婚の時には親族と親しい人のみが扶けるのが例である。八つの組每には何等統一的組織はなく、勿論信仰對策などもない。婚祭の時の招宴も、富裕な者は洞內の全戸から、貧困な者は洞內の老人及び親戚のみを招き、組には關係しないと云ふ事であつた。艮峴洞では今でも盛んにプマシを行つて居るが、プマシを組む場合も八つの組は別に關係はない。組內の者と特に多く組むと云ふ譯ではない。

忠淸北道堤川郡錦城面積德里は、現在四十一戸であるが、藥浦（十六戸）、南山（五戸）、谷村（二十戸）の三つの組に分れて居る。これも單なる地名丈ではなく、矢張り此等の組每には特殊の社會關係が存し、明らかに隣保を形成して居るものであるとは、此部落の長老朴某氏の言である。葬式の時など其組の者丈出る場合も甚だ多い。贈答や招宴にも組を單位とする場合がある。然し組を單位とする常存的な組織は何もない。家を建てる時などは、部落內の各戸から一日丈は必ず出て手傳ひをする。材料や道具も持參して出る。それは昔も今も同じである。火災や重病の家にも、部落全部で扶助をする。

思ふに朝鮮の村落に於いても、村落內部に近隣集團が分立して居る事は認められない譯ではないが、それは組織化の高い集團ではない。けれどもこゝでは村落自體が一つの近隣集團としての組織と機能を多分に持つて居る。朝鮮農村に於ける近隣集團は、村落自體であると云つたが事實を最も正當に物語る樣に考へられる。或る地方に於けるコンクルは重病者或ひは初喪の家の耕作を一洞內の全員が扶助勞働する制度であると聞いて居るが、此制度を見ても洞卽ち部落が近隣集團である事が分る。婚喪の道具は多くの洞では、洞契に依つて保管し、全洞民の共同利用に供されて居る。內地に於ける多くの部落に於いて部落內の組ごとに組內の人々の共同利用の爲に膳椀等を持つて居るのと同樣である。內地に於いては葬儀の時の相互扶助の範域は原則的に部落內の組である。朝鮮に於いては部落そのものである。朝鮮の近隣集團は洞卽ち部落であると云ふ可きであらう。そして洞內の小地域の區分は、單なる近隣關係の便宜的區分と云ふ可きであらう。（つゞく）